



SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ プロダクトノート

XCP 1041 版

Copyright 2007 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, California 95054, U.S.A. および富士通株式会社 〒 211-8588 神奈川県川崎市中原区上小田中 4-1-1, Japan. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社は、それぞれ本書に記述されている製品および技術に関する知的所有権を所有または管理しています。これらの製品、技術、および本書は、著作権法、特許権などの知的所有権に関する法律および国際条約により保護されています。これらの製品、技術、および本書に対して Sun Microsystems, Inc. および富士通株式会社が有する知的所有権には、<http://www.sun.com/patents> に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品および技術は、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。富士通株式会社と Sun Microsystems, Inc. およびそのライセンサーの書面による事前の許可なく、このような製品または技術および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。本書の提供は、明示的であるか黙示的であるかを問わず、本製品またはそれに付随する技術に関するいかなる権利またはライセンスを付与するものでもありません。本書は、富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. の一部、あるいはそのいずれかの関連会社のいかなる種類の義務を含むものでも示すものでもありません。

本書および本書に記述されている製品および技術には、ソフトウェアおよびフォント技術を含む第三者の知的財産が含まれている場合があります。これらの知的財産は、著作権法により保護されているか、または提供者から富士通株式会社および/または Sun Microsystems, Inc. へライセンスが付与されているか、あるいはその両方です。

GPL または LGPL が適用されたソースコードの複製は、GPL または LGPL の規約に従い、該当する場合に、お客様からのお申し込みに応じて入手可能です。富士通株式会社または Sun Microsystems, Inc. にお問い合わせください。

この配布には、第三者が開発した構成要素が含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに由来しています。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴ、Java、Netra、Solaris、Sun Ray、Answerbook2、docs.sun.com、OpenBoot、および Sun Fire は、米国およびその他の国における Sun Microsystems, Inc. の商標または登録商標です。

富士通および富士通のロゴマークは、富士通株式会社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

SPARC64 は、Fujitsu Microelectronics, Inc. および富士通株式会社が SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の商標です。

OPEN LOOK および Sun™ Graphical User Interface は、Sun Microsystems, Inc. が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。Sun Microsystems, Inc. は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザー



Please
Recycle



Adobe PostScript

インタフェースの概念の研究開発における Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。Sun Microsystems, Inc. は Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK GUI を実装しているかまたは Sun の書面によるライセンス契約を満たす Sun Microsystems, Inc. のライセンス実施権者にも適用されます。

United States Government Rights - Commercial use. U.S. Government users are subject to the standard government user license agreements of Sun Microsystems, Inc. and Fujitsu Limited and the applicable provisions of the FAR and its supplements.

免責条項：本書または本書に記述されている製品や技術に関して富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社が行う保証は、製品または技術の提供に適用されるライセンス契約で明示的に規定されている保証に限ります。このような契約で明示的に規定された保証を除き、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. およびそのいずれかの関連会社は、製品、技術、または本書に関して、明示、黙示を問わず、いかなる種類の保証も行いません。これらの製品、技術、または本書は、現状のまま提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。このような契約で明示的に規定されていないかぎり、富士通株式会社、Sun Microsystems, Inc. またはそのいずれかの関連会社は、いかなる法理論のもと第三者に対しても、その収益の損失、有用性またはデータに関する損失、あるいは業務の中断について、あるいは間接的損害、特別損害、付随的損害、または結果的損害について、そのような損害の可能性が示唆されていた場合であっても、適用される法律が許容する範囲内で、いかなる責任も負いません。

本書は、「現状のまま」提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も、かかる免責が法的に無効とされた場合を除き、行われないものとします。

目次

はじめに	vii
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのサポートについて	vii
技術サポート	vii
ソフトウェアリソース	vii
マニュアルへのアクセス	viii
コメントの送付先	viii
改版記録	ix
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート	1
サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	1
パッチに関する情報	2
Solarisのパッチ情報	2
既知の問題	4
一般的な機能の問題と制限	4
XSCFユニット二重化機能に伴う留意事項	6
ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題	7
特定の問題と回避方法	7
ハードウェアマニュアルの変更予定	8
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル』の正誤表	12

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバサービスマニュアル』の訂正	14
拡張筐体付きシステムの電源投入／切断の手順	14
LEDによるエラー表示	15
『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』の訂正	16
冷却（空調）条件	16
ブレーカーの特性	17
ソフトウェアに関する問題	18
XCPに関する特定の問題と回避方法	18
Solarisに関する特定の問題と回避方法	21
ターゲットボードのカーネルメモリの識別	31
ソフトウェアマニュアルの変更予定	32

はじめに

本書では、SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのサポートについて

技術サポート

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのドキュメントで取り上げられていない技術上の問題または質問がありましたら、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

ソフトウェアリソース

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバにはSolaris™ オペレーティングシステム (OS) およびSun Java™ Enterprise System softwareがプレインストールされています。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのソフトウェアリソースについては、営業担当者または当社技術員までご連絡ください。

注 – 最新のパッチ情報は以下を参照してください。

日本語サイト

<http://software.fujitsu.com/jp/security/products-others/unix/index.html>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/global/support/software/security/products-s/patch-info/>

インストールに関する情報とREADMEファイルもパッチと一緒にダウンロードされます。

マニュアルへのアクセス

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのインストレーション、管理、使用のための手順は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットに示されています。マニュアルセットは、以下のウェブサイトからダウンロード可能です。

日本語サイト

<http://primeserver.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

グローバルサイト

<http://www.fujitsu.com/sparcenterprise/manual/>

注 – 本書で説明する情報は、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのマニュアルセットの情報よりも優先されます。

Solaris 関連のマニュアル

<http://www.sun.com/documentation>

コメントの送付先

本マニュアルに関するご意見、ご要望または内容に不明確な部分がありましたら、マニュアル番号、マニュアル名称、ページおよび具体的な内容を営業担当者または当社技術員にお知らせください。

なお、コメントをお寄せいただくときは、対象となるドキュメントの名称およびマニュアル番号もあわせてお知らせください。

改版記録

変更箇所	変更内容
02版 サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン	Capacity on Demand 機能の有無の誤記修正
特定の問題と回避方法 マニュアルの変更予定	01版公開後に見つかった問題、対処の修正、追加 変更予定記事の追加
03版 特定の問題と回避方法 マニュアルの変更予定	02版公開後に見つかった問題、対処の修正、追加 『設置計画マニュアル』に記載された「冷却条件」および「ブレーカー容量」の修正 変更予定記事の追加
04版 特定の問題と回避方法 マニュアルの変更予定	03版公開後に見つかった問題、対処の修正、追加 変更予定記事の追加

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ プロダクトノート

本書では、SPARC® Enterprise M8000/M9000サーバ、ソフトウェア、および出版後に見つかったドキュメントに関する最新の情報を説明します。本書は、以下の内容を含んでいます。

- サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン
- パッチに関する情報
- 既知の問題
- XSCFユニット二重化機能に伴う留意事項
- ハードウェアのインストレーションおよびサービスに関する問題
- ハードウェアマニュアルの変更予定
- ソフトウェアに関する問題
- ソフトウェアマニュアルの変更予定

サポートされているファームウェアおよびソフトウェアのバージョン

本リリースでは、次に示すバージョンのファームウェアおよびソフトウェアがサポートされています。

- XSCF Control Package (XCP) 1041以降

注 – ご使用の製品にXCP 1041より古い版数がプレインストールされている場合は、XSCF Control Package (XCP) 1041以降にアップデートする必要があります。ブラウザユーザーインターフェース (BUIとも呼ばれます) を使用してXCPをインポートし、XSCF Shellのflashupdateコマンドを使って新しい版を適用してください。



注意 – CR ID #6534471 : カーネルメモリ内ラージ・ページの扱いが不適切なため、予期せぬパニックが発生することがあります。本プロダクトノートに記載されているCR ID #6534471 の回避方法を実施するか、もしくはパッチが入手可能かどうか確認し、ただちにインストールしてください。これは、125100-06 で修正されました。

- 本サーバは、Solaris 10 11/06 以降のSolarisをサポートしています。
- XCP 1041は、PCIボックスをサポートします。
- 今回リリースされるXCPは、Capacity on Demand (COD) 機能をサポートしません。

注 – 今後のCOD Right To Use (RTU)ライセンス追加をサポートするため、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバはすべて、XCP1050にアップグレードする必要があります。最寄りの営業担当者にお問い合わせください。

パッチに関する情報

ソフトウェアに関する情報については、「Solarisに関する特定の問題と回避方法」「POSTに関する特定の問題と回避方法」「OpenBoot PROMに関する特定の問題と回避方法」「XSCFに関する特定の問題と回避方法」を参照してください。

Solarisのパッチ情報

以下のパッチは、Solaris 10 11/06 OSが動作しているSPARC Enterprise M8000/M9000サーバには、必須です。

- 118833-36 (125100-04の前に118833-36をインストールしてください。)
- 125100-04以降
- 120068-03以降
- 123839-07以降
- 125424-01以降

■ 125075-01以降

注 – viiページの「[ソフトウェアリソース](#)」を参照し、最新パッチの入手方法を確認してください。インストールに関する情報とREADMEファイルがパッチと一緒にダウンロードされます。

既知の問題

ここでは、本リリース時に既知の問題を説明します。

一般的な機能の問題と制限

- `admin`という語は、XCPの次期バージョンでシステムの予約語となるため、ユーザーアカウント名として使用しないようにしてください。`admin`を使用した場合は、XCPをアップグレードする前に、削除する必要があります。
- Dynamic Reconfiguration（動的再構成、DR）は、次の場合においては、DRの`addboard(8)`、`deleteboard(8)`、`moveboard(8)`コマンドの以下の制約により、推奨されません。
追加情報およびソフトウェアサポートについては、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。
 - 特定のカードに一部制限があるため、オプションI/Oカードを搭載したターゲットボード（SB/XSB）。



注意 – サポートされていない構成でDRを行うと、ドメインパニックやシステムハングを起こす場合があります。

- ZFS ファイルシステムを使用したドメインはDRを行うことができません。
- PHP機能は、本リリースでは利用できません。追加情報とソフトウェアのサポートについて営業担当者または当社技術員にお問い合わせください。
- IOUA（基本IOカード）の搭載は、1ドメインあたり6枚までです。
- SPARC Enterprise M8000 /M9000 サーバでは、eXtended System Control Facility（XSCF）ユニット（サービスプロセッサ）の二重化構成はサポートしていません。
- CD-RW/DVD-RWドライブユニットとテープドライブユニットを同時に使用しないでください。
- Solaris動作中に`cfgadm(1M)`コマンドを使用して、CD-RW/DVD-RWドライブユニットおよびテープドライブユニットのドメインへの組み込み/切り離しは行わないでください。
CD-RW/DVD-RWドライブユニット、またはテープドライブユニットを使用する場合、OSをブートする前に、XSCFの`cfgdevice(8)`コマンドにて、ドメインへの組み込み/切り離しを行ってください。

- XSCF Webブラウザインターフェース (BUIとも呼ばれます) は、本リリースでは機能の一部のみを使用できます。使用可能になっているのは、XSCFファームウェアのインポートおよびsnapshot(8)コマンドのFullログセットの採取機能のみです。これ以外の操作には、サービスプロセッサおよびドメインでコマンドラインインターフェース (CLI) を使用してください。
- XCPファームウェアをアップデートする場合は、事前にすべてのドメインの電源を切断してください。
- 本リリースでは、CODボードの保守作業を実施するためには、システムの電源をオフする必要があります。
- 外部電源制御装置はサポートしていません。
- 回線切替機はサポートしていません。
- PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP cards (1027A-Z/X1027A-Z) には、下記の制限が適用されます。
 - 各ドメインで、カードを3枚以上使用することはできません。
 - PCIボックスで、これらのカードを使用することはできません。
- PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP cards (4447A-Z/X4447A-Z) には、下記の上限が適用されます。
 - 各I/Oポートで、カードを3枚以上使用することはできません。
 - SPARC Enterprise M8000/M9000サーバでは、カードを9枚以上使用することはできません。

XSCFユニット二重化機能に伴う留意事項

XSCFユニットの二重化機能がサポートされるまでのあいだ、ドキュメントの記述と実際の動作で以下の点が異なります。

- 基本筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_B#1) および拡張筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_C#1) のREADY LEDが点滅を続け、点灯に変化しません。
- 基本筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_B#1) には、シリアルケーブル、LANのいずれを使用してもログインすることができません。
- XSCFのshowhardconf(8)コマンドを使用した場合、基本筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_B#1) および拡張筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_C#1) に関して、以下のように表示されます。
XSCFU_B#1 Status:Normal,Offline; Ver:0000h; Serial;;
+ FRU-Part-Number;;
XSCFU_C#1 Status:Normal,Offline; Ver:0000h; Serial;;
+ FRU-Part-Number;;
- XSCFのswitchscf(8)コマンドは以下のメッセージを表示して異常終了します。
"XSCF cannot be switched because the other XSCF is not available."
- XSCFのapplynetwork(8)コマンド使用時、以下のメッセージが表示されますが、無視しても差し支えありません。
"The other XSCF could not apply the network settings."
- XSCFの次のコマンドを使用した場合、"Cannot communicate with the other XSCF. Check the other XSCF's state."というメッセージが表示されますが、無視しても差し支えありません。
showhostname(8), setssh(8), settelnet(8), setntp(8), sethttps(8)
- 基本筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_B#1) にLANケーブルを接続しないでください。
ただし、SPARC Enterprise M9000サーバで拡張筐体を接続する場合は、XSCFU_B#1と拡張筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_C#1) をデータケーブル (注) で接続してください。

注 – データケーブル; 基本筐体と拡張筐体のXSCFユニット同士を接続するための各コネクタに接続されるケーブル

- 基本筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_B#1) のRemote Cabinet Interface (RCI) 機能はサポートしていません。
基本筐体用XSCFユニット#1 (XSCFU_B#1) へRCI装置を接続および設定しないでください。

ハードウェアのインストールおよびサービスに関する問題

ここでは、ハードウェアに関する問題と回避方法を示します。

特定の問題と回避方法

表 1 は既知のハードウェアの問題と回避方法を示します。

表 1 特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
6433420	ブート中、ドメインコンソールがMailbox timeoutまたはIOCB interrupt timeout errorを表示することがあります。	OBP (OK)プロンプトからreset-allコマンドを発行し、リブートしてください。
6488846	ブート中、ドメインコンソールがSG(X)PCI2SCSIU320-Z SCSIコントローラI/Oカードのchecksum errorを表示することがあります。	最新のコントローラカードファームウェアが提供されているかご確認ください。
6557379	電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。	一系統受電のサーバでは、すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません。

ハードウェアマニュアルの変更予定

表 2 では、今後のマニュアルの変更予定を示します。

表 2 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに関するすべてのドキュメント		DVD という表記は、すべてCD-RW/DVD-RWと読み替えてください。 以下の用語の定義が更新されています。 PCIボックス PCIスロットを増設するための外付けのデバイス。PCIe接続を介してシステムのI/Oユニットに接続され、1つまたは2つのI/Oポートを持つ。 I/O ポート PCIボックス内のI/Oユニット。I/Oポートは、PCI-Express (PCIe)スロットに、I/Oポート上のPCIe switchまたはPCI-X bridgeを介して接続し、6つのPCI-Xスロットまたは6つのPCIeスロットのいずれかを提供する
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-2	「表1.1 サーバの仕様」 以下の情報が追加されます。 アーキテクチャ: SPARCV9 architecture プラットフォームグループ: sun4u プラットフォーム名: SunW, SPARC-Enterprise
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-2	「表1.1 サーバの仕様」 主記憶 (メモリモジュール) に8GB DIMM搭載時の最大メモリ容量が記載されていますが、現時点では8GB DIMMを搭載することはできません。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-15	「1.3.3 I/Oユニット」 LANポートの種類について、1000Base-T/100Base-TX/100Base-Tと記載されていますが、正しくは1000Base-T/100Base-TX/10Base-Tです。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ製品概要	1-19	「1.5.3 SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体) オプション」 SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体) の最大メモリ容量について、最大2Bメモリと記載されていますが、正しくは最大2TBメモリです。 ただし、ここに記載されている最大メモリ容量は8GB DIMM搭載時のものであり、現時点では8GB DIMMを搭載することはできません。

表 2 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	2-19	「表2.11 FRU 個別に定義されているLED の状態表示」XSCFU およびIOU (LAN 用表示部分) の下に、HDDを追加します。追加した内容は、15ページの「LED によるエラー表示」を参照してください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	4-2	「4.2.1.2 PCI カードの切り離し」 以下の注意文を追加します。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⚠ 注意 注意 – PCI カセット部で LAN ケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れると PCI カードが破損するおそれがあります。</p> </div>
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	4-16	「4.7 M9000 拡張筐体付きで二系統受電の場合の電源投入・切断順序」 変更した内容は、14ページの「拡張筐体付きシステムの電源投入/切断の手順」を参照してください。
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	10-1 11-1	「第10章 オペレーターパネルの交換」 「第11章 XSCF ユニットの交換」 以下の文章を追加します。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>重 要 XSCFユニットとオペレーターパネルを同時に交換すると、システムが正常に動作しなくなります。showhardconfコマンドまたはshowstatusコマンドで先に交換した部品が正常であることを確認してから、次のFRUの交換を行ってください。</p> </div>
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	12-3	「12.2 活性交換の手順2」 最後に以下の文章を追加します。 「HDD のREADY LED (緑) が消灯します。」
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	12-4	「12.2 活性交換の手順9」 最後に以下の文章を追加します。 「HDD のREADY LED (緑) が点灯します。」
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	13-3	「13.2 活電交換の手順7」 以下の注意文を追加します。
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>⚠ 注意 注意 – LAN ケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れると PCI カードが破損するおそれがあります。</p> </div>

表 2 マニュアルの変更予定 (続き)


マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	13-11	「13.3 停止交換の手順7」 以下の注意文を追加します。
		<div style="display: inline-block; border: 1px solid black; padding: 2px;">  注意 </div> 注意 - LAN ケーブルなどを抜くときに、コネクタのロック部まで手が入らない場合は、マイナスドライバーでロック部を押してケーブルを抜いてください。無理やり指を入れると PCI カードが破損するおそれがあります。
SPARC Enterprise	25-2	「25.1.2 停止増設」
M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル	25-4	「25.2.2 停止減設」 手順6として、以下の文章を追加します。 「オペレーターパネルのXSCF STANDBY (緑) が点灯していることを確認します。 点滅していたら点灯に変わるまで待ちます。」

表 2 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル	1-8	<p>「1.2.2 システムの設置 (スペース)」</p> <p>以下の情報が追加されています。</p> <p>「SPARC Enterprise M8000/M9000サーバを設置する電子計算機室の天井の高さは、装置の下から吹き上げた冷風が装置の発熱を冷却した後に、室内を良好に流れて空調機へ循環できる高さが必要です。そのためには、床面 (フリーアクセス床を使用する場合は、フリーアクセス床の床面) から天井までの高さを 2.3m (7.5フィート) 以上にしてください。」</p>
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル	2-3	<p>「2.2 電源条件」</p> <p>以下の情報が追加されています。</p> <p>「SPARC Enterprise M8000/M9000サーバは、単相電源および三相電源の、2種類の電源を使用できます。冗長電源ケーブルは、二系統受電オプションを搭載しているサーバでのみサポートされます。二系統受電オプションは、三相電源構成のサーバ上では、デフォルトで搭載されています。」</p> <p>「注) 電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。一系統受電のサーバでは、すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません。」</p>
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ インストールガイド	2-3	<p>「2.2.2 設備電源の条件」</p> <p>以下の情報が追加されています。</p> <p>「SPARC Enterprise M8000/M9000サーバは、単相電源および三相電源の、2種類の電源を使用できます。冗長電源ケーブルは、二系統受電オプションを搭載しているサーバでのみサポートされます。二系統受電オプションは、三相電源構成のサーバ上では、デフォルトで搭載されています。」</p> <p>「注) 電源ケーブルは、二系統受電オプションなしの一系統受電サーバでは、冗長化されていません。一系統受電のサーバでは、すべての電源ケーブルは常時接続され、電源投入されていなければなりません。」</p>

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービス スマニュアル』の正誤表

表 3は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービススマニュアル』の誤記を訂正する内容を示します。

表 3 SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービススマニュアルの正誤表

ページ	変更箇所	変更内容
2-9	「2.2 オペレーターパネル」 本体装置の稼働状態はLED で確認し、電源の操作はスイッチで行います。	本体装置の稼働状態はLED で確認し、電源の操作はPOWER スイッチで行います。
2-15	「2.4.2.1 ソフトウェア構成の確認の手順1」 showrevコマンドを入力します。 xscf> showrev	showrev(1M)コマンドを入力します。 # showrev
5-2	「表5.1 アクセスしたい部品と扉の対応」 IDPFC	RDPF
2, 6-24章	「停止交換」 全ドメインに対してシャットダウン処理が行われ、電源が切断されます。	全ドメインに対してOS のシャットダウン処理が行われた後、電源切断処理が行われます。
6-11, 14-24章	「停止交換」 シャットダウン処理が終了したことをオペレーターパネルのPOWER LED (緑) が消灯したことにより確認します。	電源切断処理が終了したことをオペレーターパネルのPOWER LED (緑) が消灯したことにより確認します。
8-6	「8.2 活電交換の手順2の手順3」 交換対象となるファンユニットのLED 状態 (CHECK LED : 点滅) を確認し、対象ファンユニットに対する交換指示のメッセージが表示されたら、実際の交換作業に入ります。	交換対象となるファンユニットのLED 状態 (POWER LED : 消灯、CHECK LED : 点滅) を確認し、対象ファンユニットに対する交換指示のメッセージが表示されたら、実際の交換作業に入ります。
12-3	「12.2 活性交換の手順3」 交換対象HDD のFAIL LED を点滅させます。	交換対象HDD のCHECK LED を点滅させます。
12-5	「12.3 停止交換の手順4」 シャットダウン処理が終了したことをHDD のPOWER LED (緑) が消灯したことにより確認します。	シャットダウンが終了したことをHDD のREADY LED (緑) が消灯したことにより確認します。
20-9	「20.2 バックプレーンの停止交換 手順10の 注意文」 バスバーの取り付けトルクは (82 kg.cm) にしてください。電源バーを取り付ける際のトルク値は、M8 ボルトは8.24 N.m (84 kg.cm) 、M6 ボルトは3.73 N.m (38 kg.cm) です。	電源バーを取り付ける場合、ねじサイズに合わせて、下記トルク値で行ってください。 - M8 ボルトは8.24 N.m (84 kgf.cm) - M6 ボルトは3.73 N.m (38 kgf.cm)

表 3 SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアルの正誤表 (続き)

ページ	変更箇所	変更内容
21-1	「21.1 センサーユニットの概要」 図 21.1、図 21.2、および図 21.3 は、それぞれ SPARC Enterprise M8000 サーバ、SPARC Enterprise M9000サーバ (基本筐体)、および SPARC Enterprise M9000 サーバ (拡張筐体付き) のセンサーユニットの搭載位置を示します。	図 21.1、図 21.2、および図 21.3 は、それぞれ SPARC Enterprise M8000 サーバ、SPARC Enterprise M9000サーバ (基本筐体)、および拡張筐体付きSPARC Enterprise M9000 サーバの基本筐体側のみのセンサーユニットの搭載位置を示します。
B-1	「SPARC Enterprise M8000 サーバ :」 ファン : 12 台 (3+1、7+1) (N+1 の冗長構成)	ファンユニット : 12 台 (N+1 のファン冗長構成)
B-2	「SPARC Enterprise M9000サーバ (基本筐体) :」 ファン : 10~16 台 (N+1 の冗長構成) (CMU やIOU の搭載が少ない場合でも、ファンはフル搭載されて出荷されます。)	「SPARC Enterprise M9000サーバ (基本筐体) :」 ファンユニット : 10~16 台 (N+1 のファン冗長構成) (CMU やIOU の搭載が少ない場合でも、ファンユニットはフル搭載されて出荷されます。)
B-3	「拡張筐体付きSPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体+拡張筐体) :」 ファンユニット : 26 ~ 32 台 (10 ~ 16 台/基本筐体、16 台/拡張筐体) (N+1 の冗長構成) (CMU やIOU の搭載が少ない場合でも、ファンはフル搭載されて出荷されます。)	ファンユニット : 26 ~ 32 台 (10 ~ 16 台/基本筐体、16 台/拡張筐体) (N+1 のファン冗長構成) (CMU やIOU の搭載が少ない場合でも、ファンユニットはフル搭載されて出荷されます。)
C-14	「C.11 XSCF ユニット」 - コマンドインターフェースにより各ドメインと通信します。	- コマンドラインインターフェースにより各ドメインと通信します。
C-15	「C.12 DVD ドライブユニット」 DVD ドライブユニットは、スリムタイプDVD に対応します。	DVD ドライブユニットは、スリムタイプ CDRW/DVD-RW ユニットを標準搭載していません。
C-15	「C.12 DVD ドライブユニット」 DVD ドライブユニットのスイッチを切り替えると、各ドメインから使用できます。	DVD ドライブユニットは、XSCF コマンドによって、どのドメインから使用できるか切り替えができます。

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービス スマニュアル』の訂正

次の情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービススマニュアル』の情報よりも優先されます。

拡張筐体付きシステムの電源投入／切断の手順

ここでは、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービススマニュアル』の4-16ページ「4.7 M9000 拡張筐体付きで二系統受電の場合の電源投入・切断順序」を訂正します。

拡張筐体付きシステムの場合、メインラインスイッチを投入または切断するときには、必ず以下の順序で行います。

・電源投入

1. 拡張筐体のメインラインスイッチをすべて投入します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて投入します。

2. 基本筐体のメインラインスイッチをすべて投入します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて投入します。

・電源切断

1. 基本筐体のメインラインスイッチをすべて切断します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて切断します。



2. 拡張筐体のメインラインスイッチをすべて切断します。

二系統受電用に電源筐体が接続されている場合は、そのメインラインスイッチもすべて切断します。

LED によるエラー表示

ここでは、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ サービスマニュアル』の2-18ページ「2.6 LED によるエラー表示の表2.11」に追加する内容を示します。

FRU個別に定義されているLEDの状態表示

FRU	LED		意味
	種類	表示	
HDD	READY	点灯（緑）	HDDが動作中であることを示します。HDDの取り外し（交換）はできません。
		 点滅（緑）	HDDがアクセス中であることを示します。HDDの取り外し（交換）はできません。
		消灯	HDDが交換可能です。
	CHECK	点灯（橙）	HDDに異常が検出されたことを示します。ただし、電源投入直後は数分間（初期化が始まるまで）点灯したままとなります。この場合は異常ではありません。
		 点滅（橙）	HDDが交換対象の装置であることを示します。
		消灯	HDDが正常であることを示します。

『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』の訂正

次の情報は、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』の情報よりも優先されます。

冷却（空調）条件

ここでは、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』の2-6ページ「2.3.1 冷却（空調）条件」を訂正します。

システムを構成する各装置の冷却・空調条件は表 2.7 のとおりです。

表 2.7 諸元（冷却／空調条件）

装置名称	発熱量 [kJ/hr]	排気量 [m3/min.]	装置の 冷却方法	空調条件	騒音値 [dB (A)]
SPARC Enterprise M8000 サーバ	37800 (*1)	94	床上／床下	強制冷却	67
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本筐体)	76680 (*2)	102	床上／床下	強制冷却	68
SPARC Enterprise M9000 サーバ (基本 + 拡張筐体)	153360 (*3)	205	床下	強制冷却	69
ラック搭載型二系統受電機構	-(*4)	-(*4)	床上／床下	強制冷却	-(*4)
電源筐体 (SPARC Enterprise M8000 サーバ)	-(*4)	-(*4)	床上／床下	強制冷却	-(*4)
電源筐体 (SPARC Enterprise M9000 サーバ基本 筐体用)	-(*4)	-(*4)	床上／床下	強制冷却	-(*4)
電源筐体 (SPARC Enterprise M9000 サーバ基本 + 拡張筐体用)	-(*4)	-(*4)	床下	強制冷却	-(*4)

備考1. (*1) は 4CMU/4IOU 搭載時の値です

備考2. (*2) は 8CMU/8IOU 搭載時の値です。

備考3. (*3) は 16CMU/16IOU 搭載時の値です。

備考4. (*4) 電源筐体およびラック搭載型二系統受電機構の発熱量、排気量、騒音値は SPARC Enterprise M8000 サーバまたは SPARC Enterprise M9000 サーバの値に含まれます。

ブレーカーの特性

ここでは、『SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ 設置計画マニュアル』の2-15ページ「2.4.2 ブレーカーの特性」を訂正します。

SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバでは、顧客分電盤ブレーカーより先に装置ブレーカーが遮断するような保護協調を保つために、顧客分電盤ブレーカーには次のような特性条件が付きます。顧客分電盤のブレーカーは、この特性条件に合ったものを使用してください。

顧客分電盤のブレーカー容量

表 2.9 顧客分電盤のブレーカー容量

電源入力	装置名称	顧客分電盤のブレーカー容量 (日本 / 北米 / 一般海外向け)	顧客分電盤のブレーカー容量 (欧州向け)
単相 (AC200-240V)	SPARC Enterprise M8000 サーバ	30 A	32 A
	SPARC Enterprise M9000 サーバ	30 A	32 A
三相デルタ (AC200-240V)	SPARC Enterprise M8000 サーバ	50 A	50 A
	SPARC Enterprise M9000 サーバ	80 A	80 A
三相スター (AC380-415V)	SPARC Enterprise M8000 サーバ	30 A	32 A
	SPARC Enterprise M9000 サーバ	50 A	50 A

ソフトウェアに関する問題

ここでは、ソフトウェアに関する問題と回避方法を示します。

XCPに関する特定の問題と回避方法

表 4 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 4 XCP に関する特定の問題と回避方法

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-004	XCPファームウェアをアップグレードする場合は、ドメインの電源が切れている必要があります。	flashupdate (8)コマンドを実行する前に、ドメインの電源を切ってください。
RTIF1-070418-005	ブート中のSCFにログインすると、XSCF>プロンプトの代わりにbash\$プロンプトを取得し、ほとんどの操作を実行できなくなることがあります。	bash\$プロンプトをログアウトし、XSCFがブートを完了するまで待ってください。
RTIF1-070418-009	XSCFが動作中、XSCFコンソールにOOM Killのエラーメッセージが表示され、プロセスダウンやwatchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリブートする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動するか、 全ドメインを停止後システムの電源切断/ 投入 (AC OFF/ON) を実行してください。
RTIF1-070418-010	showdomainstatus -a コマンドではドメインステータスがPowered Offと表示されますが、showboards -a コマンドではドメインがテスト中と表示されます。	showboardsコマンドを使用して、ドメイン電源のステータスを確認してください。 showdomainstatusコマンドでは、正しいステータスを表示するのに、より時間がかかります。
RTIF1-070418-011	コンフィギュレーションデータをアップデートするコマンドに、実行に比較的長い時間を要するものがあります。	set* コマンドをキャンセルしないでください。これらのコマンドはハングしたように見えますが、最終的には約30秒以内に完了します。
RTIF1-070418-012	fault (memory.block.ue)が周期的に見つかり、報告されます。	あるDIMMの中にuncorrectable error が存在しており、このDIMMは交換されるべきです。
RTIF1-070418-020	XSCF Web を使用してファームウェアイメージをインポートするときにイメージが破損した場合、後にflashupdate コマンドで内部エラーが報告されることがあります。	ファームウェアイメージを再度インポートします。XSCFユニットをリブートしてから、再度flashupdate コマンドを使用して内部エラーをクリアしてください。

表 4 XCP に関する特定の問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070418-023	rebootxscf(8)を使用すると、process down errorになることがあります、これはMSG ID SCF-8005-NEのFMA eventの可能性あります。	このイベントは、無視してください。
RTIF1-070418-025	showaudit all コマンドが、データベースのクリア後、policy sectionにdefaultsの長いリストを表示します。	以下の設定で、データベースをアップデートしてください。 setaudit -a opl=enable setaudit -a opl=default
RTIF1-070528-001	Solarisの/etc/ttydefsファイルを編集して、コンソールフロー制御を無効にした場合、中継サーバを経由のtelnetではコンソールフロー制御を無効にすることができません。	現時点では、有効な回避方法はありません。
RTIF1-070528-002	XSCFが動作中、watchdogタイムアウトが発生し、XSCFがリポートする場合があります。	XSCF が起動されていることを確認してください。 起動されていない場合は、rebootxscf(8) コマンドによりXSCF を再起動するか、全ドメインを停止後システムの電源切断/投入 (AC OFF/ON) を実行してください。
RTIF1-070802-001	telnetした時、loginまたはpasswordプロンプトが表示されません。	telnet接続を一度切断し、再度telnetしてください。
RTIF1-070824-001	ドメインの電源連動機能のリモート電源制御モードを有効にしている場合、XSCFユニット交換後、RCIによる電源連動が作動しなくなる。	XSCFユニット交換後、RCIを再構築し、リモート電源制御モードを設定してください。
RTIF1-070904-002	Snapshot CLIが書き込み保護設定をしているUSBスティックに書き込みを試みると、I/Oエラーとなります。	書き込み保護されたUSBデバイスを使ってshapshot収集を試行しないでください。
RTIF1-070904-003	誤ったdomain状態が報告されます。ドメインに対し、sendbreakコマンドが発行された後、ドメインが実際には"ok"プロンプトになっても、showdomainstatusコマンドは"Running"の状態を表示し続けます。	回避方法はありません。これは、sendbreakの正しい動作です。
RTIF1-070904-004	showarchivingのlatest communication フィールドが定期的にアップデートされません。	archivingをいったん無効にしてから再度有効にすると、showarchivingのアウトプットのLatest communicationがリフレッシュされます。

表 4 XCP に関する特定の問題と回避方法 (続き)

ID	説明	回避方法
RTIF1-070904-005	NTPサーバと時刻同期ができません。	<p>NTPサーバのstratum値を確認してください。XSCFのstratum値は"5"です。XSCFが参照するNTPサーバは、stratum値が5より小さいサーバである必要があります。参照するNTPサーバを変更した場合は、XSCFをリブートしてください。</p> <p>stratum値が正しく設定されていても時刻同期できない場合は、showntp(8)コマンドにより、表示されるjitter値を確認してください。この値が大きい場合は、XSCFをリブートしてください。</p>
RTIF1-070904-006	ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDRの実行中にXSCFがリブートした場合、一部、またはすべてのXSBで、ドメイン電源投入、ドメインリセット、またはDR処理が中断されてしまう場合があります。	再度、ドメインリセットを実行するか、一旦ドメイン電源切断した後で電源投入を実施してください。
RTIF1-070912-001	不正なSMTPサーバが設定されていると、その後(setemailreport のCLIを使用して)emailサービスを無効化しようとしても、最長30分間ブロックされることがあります。	<p>CLIが完了するのを待ってください。この間、システムの残りの部分は正常に機能します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CLIは、^C で中断することもできます。^C が使用された場合でも、操作(emailreportの無効化)が完了することにご注意ください。 • showemailreportコマンドを使って、サービスが無効化されていることを確認することができます。

Solarisに関する特定の問題と回避方法

表 5 に、既知の問題とこれらの問題に対して実行可能な回避方法を示します。

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法

CR ID	説明	回避方法
5076574	PCIeエラーが、大規模なM8000/M9000ドメイン上、無効な障害診断につながる場合があります。	以下を含む、/etc/fm/fmd/fmd.conf ファイルを作成してください。 setprop client.buflim 40m setprop client.memlim 40m
6303418	SPARC Enterprise M9000サーバにおいて、1ドメインあたりの CPUスレッド数が170を超えた場合、ハングアップする場合があります。	170 CPUスレッドを超えないようにしてください。 Solaris OS のpsradm(1M)コマンドを使用して余分なCPUスレッドをオフラインし、CPUスレッドの数を1CPUコアあたり1つに制限してください。 例えば、すべての奇数の CPU スレッドをオフラインにするなどです。
6348554	以下のカード上で <code>cfgadm -c disconnect</code> コマンドを使用すると、 <code>i_mdi_pi_offline</code> 中にコマンドがハングすることがあります。 <ul style="list-style-type: none">SG-XPCIE2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBASG-XPCIE1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-E HBASG-XPCI2FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-X HBASG-XPCI1FC-QF4 Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Single-Port Fibre Channel PCI-X HBA	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6416224	単一のNICカードの接続数が5,000を超えると、システムパフォーマンスが低下することがあります。	複数のNICカードを使用して、ネットワーク接続を分割してください。
6440061	ドメインのコンソールに、 <code>ipsec_check_inbound_policy: Policy Failure for the incoming packet (not secure)</code> というメッセージが表示されることがあります。	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6441349	システム内でI/Oエラーが発生したときに、システムがハングすることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6449315	Solarisの <code>cfgadm (1M)</code> コマンドを実行しても、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバ上のドメインからDVDドライブが構成解除されません。	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドでDVDドライブを構成解除するには、事前にボリューム管理デーモン (<code>vold</code>) を無効にする必要があります。 <code>vold</code> を無効にするには、 <code>/etc/init.d/volmgt stop</code> コマンドを発行してデーモンを停止します。デバイスを取り外したり取り付けた後には、 <code>/etc/init.d/volmgt start</code> コマンドを発行してデーモンを再起動します。
6459540	SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバの内蔵テープドライブユニットがテープの処理中にタイムアウトすることがあります。	以下の定義を、 <code>/kernel/drv/st.conf</code> に追加してください。 <pre>tape-config-list= "SEAGATE DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000", "SEAGATE_DAT DAT72-000"; SEAGATE_DAT DAT72-000= 1,0x34,0,0x9639,4,0x00,0x8c,0x8c, 0x8c,3; "SEAGATE_DAT"と"DAT72-000"の間には、4つの半角スペースがあります。</pre>
6466617	PCI-Express スロットのHot Plug操作が速すぎると、PCI リーフのリセットが中断されて障害が発生し、 <code>cfgadm: Component system is busy</code> エラーが発生します。	<code>cfgadm -c</code> コマンドを続けて発行するとき、数秒の間隔をおいて発行してください。
6472153	SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバ以外のサーバ上にSolarisフラッシュアーカイブを作成し、それをSPARC Enterprise M8000/M9000 サーバにインストールすると、コンソールのTTYフラグが正しく設定されません。その結果、コンソールのハングを引き起こすことがあります。	インストールした直後にSPARC Enterprise M8000/M9000 サーバにtelnetで入り、コンソールのTTYフラグを以下のようにリセットします： <pre># sttydefs -r console # sttydefs -a console -i "9600 hupcl opost onlcr crtscts" -f "9600"</pre> <p>この作業は1回だけ実行してください。</p>
6481002	PCI-Expressカードを使用してネットワークからSolarisをインストールすると、パニックが発生することがあります。	Sun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter MMFカードまたはSun PCI-E Dual Gigabit Ethernet Adapter UTPカードを使用している場合は、これらのカードを使用してSolarisをインストールしないでください。代わりに、オンボードのGigabit Ethernetなど、他のネットワークデバイスを使用してください。

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6485555	レースコンディションにより、オンボードの Gigabit Ethernet NVRAMに障害が発生します。このレースコンディションが発生する可能性は、非常に低いものです。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6496337	uncorrectable error (UE) パニック後、"cpumem-diagnosis" モジュールのロードに失敗することがあります。システムは正しく機能しますが、通常このモジュールを使用しFMAによって自動的に診断されているイベントは、マニュアルでの診断が必要になります。 例： SUNW-MSG-ID: FMD-8000-2K, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Thu Feb 15 15:46:57 JST 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: col2-ff-em7-d0	問題が発生した場合、以下を実施してください。 1. 以下のファイルを削除してください。 # rm/var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis 2. fmdサービスをリスタートしてください。 # svcadm restart fmd 問題を事前に回避する場合、 /lib/svc/method/svc-dumpadm の以下の場所に "rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis" を追加してください。 # # We haven't run savecore on a dump device yet # savedev=none rm -f /var/fm/fmd/ckpt/cpumem-diagnosis/cpumem-diagnosis #
6498283	ドメインで psradm を操作中に DR の deleteboard(8) コマンドを使用するとシステムがパニックすることがあります。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6499304	<p>Correctable Error (CE) が多数発生すると、CPUがオフラインにならず、予期しないメッセージがコンソール上に表示されます。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Fri Feb 2 18:31:07 JST 2007 PLATFORM: SPARC-Enterprise, CSN: BE80601035, HOSTNAME: FF2-35-0</p>	<p>XSCFでCPUステータスを確認してください。</p>
6502204	<p>CPU UEパニック後、ブート中に、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。</p> <p>例: SUNW-MSG-ID: FMD-8000-11, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Tue Jan 9 20:45:08 JST 2007 PLATFORM: SUNW, SPARC-Enterprise, CSN: 2030636002, HOSTNAME: P2-DC1-16-d0</p>	<p>予期しないメッセージが表示されたら、XSCFのshowdomainstatus(8)コマンドでドメインステータスを確認してください。</p>
6502750	<p>PCI Hot Plugによるカードの挿入または取り外しに対する通知メッセージが出力されないことがあります。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
6505921	<p>I/O correctable errorが多数発生すると、多数のSUNOS-8000-ILメッセージがコンソール上に表示されます。</p>	<p>営業担当者または当社技術員にご連絡ください。</p>
6508432	<p>I/Oスロット1またはPCIボックスにおいて、Correctable エラー (CE) が大量に発生した場合、修正可能なエラーであるにも関わらず、ドメインがパニックすることがあります。</p>	<p>/etc/system に以下の設定を行い、ドメインをリブートしてください。 set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</p>
6508434	<p>PCI Hot Plugにより、PCI-Xカードの増設およびPCI-Xの交換を行うとドメインがパニックする場合があります。</p>	<p>PCI Hot Plug 機能により、同一スロット上のPCI-Xカードの種類を変更しないでください。</p>
6509337	<p>s10s_u3WANブートに失敗し、サーバが「416: Requested Range Not Satisfiable」を返しました。</p>	<p>現時点では、有効な回避方法はありません。</p>
6510779	<p>大規模シングルドメイン構成上、システムが誤って非常に高い負荷平均を報告することがあります。</p>	<p>回避方法はありません。</p>

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6510861	Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X7SC2F, SE0X7SC2X)を搭載している場合、correctable error (CE) が発生するとパニックします。	Dual-Channel Ultra320 SCSI Card (SE0X7SC2F, SE0X7SC2X)を搭載した場合に、これらのエラーをマスクするには、以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください: set pci:pcie_aer_ce_mask = 0x31c1
6511374	システム構成変更後、予期しないエラーメッセージがコンソール上に表示されることがあります。 例: WARNING: Translation error source /LSB0/B0/0, PA 3c00000000, target /LSB0/B0/20000000	このメッセージは無視しても差し支えありません。
6515648	dr@0:SB1::memoryの失敗時、「Replumb Failed」の問題が発生します。	DR操作が完了したら、手動で設定できます。インターフェースを手動で再設定する手順の例は、次のとおりです。 # ifconfig interface plumb xxx.xxx.xxx.xxx netmask + broadcast + up # ifconfig interface group group-name # ifconfig interface addif xxx.xxx.xxx.xxx -failover deprecated up この回避方法は、/etc/hostname.<interface>ファイルがIPMPグループに対して正しく設定されており、修正の必要がないことを前提としています。上述の例で使用しているIPアドレスは、以前使用していたIPアドレスおよび /etc/hostname.<interface>ファイルと一致していなければなりません。
6516135	cfgadm(1M) によりデバイスや Ap_Id が正しく表示されないことがあります。	以下の操作を使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 1) devfsadm (at Solaris prompt) 2) cfgadm
6519290	スワップデバイス上の大量のI/OがI/O性能をはるかに上回ることによって、システムがハングしたように見える場合があります。必要とされるI/Oの量は、メモリの不足や/tmpの頻繁な使用など、さまざまな方法で生成される可能性があります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください。 set maxfastscan=0x2000

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6520990	Dynamic Reconfiguration (DR) によるカーネルボードの <code>deleteboard(8)</code> コマンドを実施した場合、ドメインがパニックすることがあります。	この問題を回避するために、以下を <code>/etc/system</code> のファイルに追加してからリブートしてください。 <code>set drmach:fmem_timeout = 30</code>
6522017	ZFSファイルシステムを使用しているドメインでは、DRが失敗することがあります。	ZFS ARC lowerの最大サイズを設定してください。
6522433	CPUハードエラーが発生した後、ドメイン上の <code>fmddump(1M)</code> コマンドで表示される故障コンポーネントが誤って表示されることがあります。	XSCFでシステムステータスを確認してください。
6525010	FMA エラーログ内に PCIe correctable エラーが記録されることがあります。	<code>/etc/system</code> に以下の設定を行い、ドメインをリブートしてください。 <code>set pcie:pcie_aer_ce_mask = 0x2001</code>
6527781	2つのドメイン間をDVD/DATドライブを移動するときに、 <code>cfgadm</code> コマンドで障害が発生します。	有効な回避方法はありません。DVD/テープドライブを再構成するために、問題が検出されたドメインで <code>reboot -r</code> を実行してください。
6527811	PCI カードを搭載したPCI ボックスを PCI hotplug で追加した場合、PCI ボックス内の PCI カードの情報が XSCF の <code>showhardconf(8)</code> で表示されません。	現時点では、有効な回避方法はありません。ただし、PCI ボックス内のそれぞれのPCI カードを PCI hotplug で追加した場合は、PCI カードの情報は正しく表示されます。
6529479	システムブート時に <code>ereport.io.ddi.fm-capability</code> の <code>ereport</code> が登録されることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。メッセージを無視してください。
6529714	1台のI/Oポートに4枚を超えるX4447A-ZカードまたはX1027A-Z1カードを組み込もうとすると、警告メッセージが表示されます。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6530178	DR の <code>addboard(8)</code> コマンドがハングする場合があります。問題が検出されると、それ以上のDR操作はブロックされます。復旧にはドメインのリポートが必要です。	回避方法はありません。このバグに対するパッチが入手可能かどうか確認してください。
6530288	<code>cfgadm(1M)</code> コマンドで表示される <code>Ap_Id</code> が正しく表示されないことがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6530753	PCIボックスのPCIスロットの一部が、通常のブート動作中に表示されません	以下の操作のいずれかを使用して、すべてのPCIスロットを表示してください。 <ul style="list-style-type: none"> • <code>boot -r</code> (at open boot prompt) • <code>devfsadm -C</code> (at Solaris prompt) • <code>cfgadm</code> (twice at Solaris prompt)
6531036	ネットワークインストール後、 <code>network initialization failed</code> のエラーメッセージが繰り返し表示されることがあります。	現時点では、有効な回避方法はありません。メッセージを無視してください。

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法 (続き)

CR ID	説明	回避方法
6531668	DR中にHot Plug処理を多重で実行すると、システムがハングします。	現時点では、有効な回避方法はありません。
6532215	ドメインのブート時に volfs や dscp サービスの起動が失敗することがあります。 svc:/platform/sun4u/dscp:default: Method "/lib/svc/method/svc-dscp start" failed with exit status 95. svc:/system/filesystem/volfs:default: Method or service exit timed out. Killing contract 59.	ドメイン起動後にサービスを再起動してください。 本問題を事前に回避する場合は以下を設定してください。 # svccfg -s dscp setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svccfg -s volfs setprop start/timeout_seconds=count: 300 # svcadm refresh dscp # svcadm refresh volfs
6534471	ドメインがパニックすることがあります。	以下を /etc/system のファイルに追加してから、ドメインをリブートしてください。 set heaplp_use_stlb=0 これは、125100-06で修正されました。
6535564	DR で追加したシステムボード上の PCI スロット #0, #1 またはPCIボックスに対する PCI Hot Plug が失敗することがあります。	回避方法はありません。PCI Hot Plug の代わりに DR によりカードの追加・削除を実施してください。
6536564	I/Oデバイスでハードエラーが発生した場合、Solaris Fault Management Architecture が正しい診断をしないため、XSCF 上の showlogs(8) や showstatus(8) コマンドが誤った故障箇所を表示することがあります。	この問題を回避するために、以下をドメインで実行してください。 # cd /usr/platform/SUNW,SPARC- Enterprise/lib/fm/topo/plugins # mv ioboard.so ioboard.so.orig # svcadm restart fmd 上記を設定後、以下のメッセージが表示された場合は、営業担当者または当社技術員にご連絡ください。 例 : SUNW-MSG-ID: SUNOS-8000-1L, TYPE: Defect, VER: 1, SEVERITY: Minor EVENT-TIME: Sun May 6 18:22:24 PDT 2007 PLATFORM: SUNW,SPARC-Enterprise, CSN: BE80601007, HOSTNAME: sparc これは、125369-05で修正されました。

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6537511	セキュリティテスト実行中にBluetoothパートナーがハングします。	アプリケーションサーバを再起動してください。
6539084	Sun製のPCIe Quad-port Gigabit Ethernet アダプターUTPカード（X4447A-Z）がリブート中にパニックすることがあります。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。これは、125670-01で修正されました。
6539909	boot net installコマンドを使用してSolaris OSをインストールしているとき、ネットワークアクセスに以下のI/Oカードを使用しないでください。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z/X4447A-Z, PCIe Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z/X1027A-Z, PCIe Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP 	Solaris 10 11/06が稼働中の場合は、代替のネットワークカードまたはオンボードネットワークデバイスを使用し、ネットワーク経由でSolaris OSをインストールしてください。 この不具合は、Solaris 10 8/07には存在しません。
6542632	driver attachが失敗すると、PCIeモジュールにメモリリークが発生します。	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6545685	OSコンソールに以下のメッセージが表示された場合、以降のリポートにおいて、メモリ縮退もしくはXSB縮退が発生することがあります。 例： mc-op1: WARNING: mc-op1 rewrite timeout on /LSB0/B0	/etc/systemに以下の設定を行い、ドメインをリポートしてください。 set mc-op1:mc_max_rewrite_loop = 10000
6546188	以下のカード上でホットプラグ(cfgadm)およびDR操作(addboardおよびdeleteboard)を実行中、システムがパニックします。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。
6551356	これまで未設定だったカードを設定するためにhotplug (cfgadm) を実行中、システムがパニックします。システムがパニックする直前に、"WARNING: PCI Expansion ROM is not accessible" というメッセージがコンソール上に表示されます。この不具合によって、以下のカードが影響を受けます。 <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	cfgadm -c disconnect を実行し、カードを完全に削除してください。最低10秒間待ってから、cfgadm -c configure コマンドを使用して、カードを元のドメインに設定することができます。

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6556742	<p>DR中、DiskSuiteがmetadbを読めないとき、システムがパニックします。このバグは、以下のカードに影響します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2FC-QF4, 4Gb PCI-e Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCIE1FC-QF4, 4Gb PCI-e Single-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI2FC-QF4, 4Gb PCI-X Dual-Port Fibre Channel HBA • SG-XPCI1FC-QF4, 4Gb PCI-X Single-Port Fibre Channel HBA 	<p>metadbの複製データに別のHost Bus Adaptor経由でアクセス可能であれば、パニックは回避できます。または、パッチ125166-06を適用することができます。</p>
6559504	<p>以下のカードを使用すると、コンソール上に、"nxge: NOTICE: nxge_ipp_eccue_valid_check: rd_ptr = nnn wr_ptr = nnn" という形式のメッセージが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>このメッセージは無視しても差し支えありません。</p>
6563785	<p>以下のカードを使用したホットプラグ操作で、カードを抜いてからすぐに再接続すると、障害が発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • SG-XPCIE2SCSIU320Z Sun StorageTek PCI-E Dual-Port Ultra320 SCSI HBA • SGXPCI2SCSILM320-Z Sun StorageTek PCI Dual-Port Ultra320 SCSI HBA 	<p>カードを抜いたあと、数秒間待ってから再接続を行ってください。</p>
6564332	<p>Sun Crypto Accelerator (SCA) 6000カード上でホットプラグ操作を実行すると、SPARC Enterprise M8000/M9000サーバのパニックまたはハングを引き起こすことがあります。</p>	<p>Version 1.0のSCA6000はホットプラグをサポートしていないため、この操作を試みるべきではありません。Version 1.1のSCA6000ドライバとファームウェアは、必要とされるbootstrap firmware upgradeが実行されたのち、ホットプラグ操作をサポートするようになります。</p>
6564934	<p>以下のネットワークカードを使用中、Permanent Memoryを含むボード上でDRのdeleteboard操作を実行すると、コネクションが切断されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>DR操作の完了後、影響を受けたネットワークインターフェースを再設定してください。基本ネットワーク設定手順についてより詳しくは、ifのマニュアルページを参照してください。</p>

表 5 Solaris に関する特定の問題と回避方法（続き）

CR ID	説明	回避方法
6568417	<p>CPU DR deleteboard 操作が正常終了後、以下のネットワークインターフェースを使用中に、システムがパニックします。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に以下を追加し、システムをリブートしてください。</p> <pre>set ip:ip_soft_rings_cnt=0</pre>
6571370	<p>実験室環境下でストレステスト中、以下のカードの使用がデータ破壊を引き起こすことが確認されています。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>/etc/system に以下を追加し、リブートしてください。</p> <pre>set nxge:nxge_rx_threshold_hi=0</pre>
6572593	<p>IOU のハードエラーが発生した場合、ドメイン上の <code>fmdump(1M)</code> による故障箇所が誤って表示されることがあります。</p>	<p>XSCF でシステムステータスを確認してください。</p>
6584984	<p>SPARC Enterprise M8000/M9000サーバにおいて、<code>busstat(1M)</code> コマンドを実行すると、そのCMU上のドメインがリポートされる場合があります。</p>	<p>回避方法はありません。<code>busstat(1M)</code> コマンドを実行しないで下さい。 この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6588650	<p>XSCFフェイルオーバーまたはXSCFリブート後に、DRが実行できないことがあります。</p>	<p>回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6589833	<p>DRの<code>addboard</code>コマンドを使用し、Sun StorageTek Enterprise Class 4Gb Dual-Port Fibre Channel PCI-E HBA card (SG-XPCIE2FC-QF4)の追加を、SAPプロセスがこのカードに取り付けられているストレージデバイスにアクセスを試みるのと同じタイミングで行おうとすると、システムのハングを引き起こすことがあります。以下のカードが、情報量の多いネットワークトラフィック上で使用されていると、システムハング発生の可能性が高まります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • X4447A-Z, PCI-e Quad-port Gigabit Ethernet Adapter UTP • X1027A-Z1, PCI-e Dual 10 Gigabit Ethernet Fiber XFP Low profile Adapter 	<p>回避方法はありません。この不具合に対応したパッチが入手可能かどうか確認してください。</p>
6592302	<p>DR操作が失敗すると、メモリが部分的に設定されたままになります。</p>	<p>復旧するには、<code>addboard</code>コマンドでボードを元のドメインに追加してから、<code>deleteboard</code> コマンドを再実行してください。</p>

ターゲットボードのカーネルメモリの識別

1. XSCFにログインします。
2. 次のコマンドを実行します。

```
XSCF> showdevices -d domain_id
```

次の例は、showdevices -dコマンドの出力を示したもので、0 はdomain_id です。

```
XSCF> showdevices -d 0

...

Memory:
-----

      board      perm      base      domain      target deleted remaining
DID XSB  mem MB  mem MB  address  mem MB  XSB  mem MB  mem MB
00 00-0   8192     0 0x0000000000000000    24576
00 00-2   8192   1674 0x000003c000000000    24576
00 00-3   8192     0 0x0000034000000000    24576

...
```

4列目の「perm mem MB」のエントリの値がゼロ以外の場合、カーネルメモリが存在することを示します。

この例は、1674MBのカーネルメモリが00-2にあることを示しています。

ボードにカーネルメモリがある場合、deleteboardコマンドまたはmoveboardコマンドを実行すると、次の通知が表示されます。

```
System may be temporarily suspended, proceed? [y|n]:
```

ソフトウェアマニュアルの変更予定

ここでは、SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバのソフトウェアマニュアルに関して、出版後にわかった最新のソフトウェアに関する情報やマニュアルの変更予定を示します。

なお、『SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000サーバ XSCFリファレンスマニュアル』に関する変更内容は、特に断りのないかぎり、マニュアルページにも適用されます。また、マニュアルページの情報よりも優先されます。

表 6 に、マニュアルの変更予定を示します。

表 6 マニュアルの変更予定

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M8000/M9000 サーバに関するすべてのドキュメント		すべてのDVD という表記は、CD-RW/DVD-RWに読み替えてください。
ioxadm(8) マニュアルページ		ioxadm(8)コマンドに必要なユーザー権限 (Privileges) は、以下のとおりです。
	ユーザー権限	オペランド
	platop	env, list
	platadm	env, list, locator, poweroff, poweron
	fieldend	env, list, locator, poweroff, poweron, reset, settled

表 6 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
showldap(8) マニュアル ページ		showldap(8)、showlookup(8)、showemailreport(8)コマ ンドのマニュアルページでは、これらのコマンドがfieldeng 権限 で使用できることは記載されていません。
showlookup(8) マニユ アルページ		
showemailreport(8) マニ ュアルページ		
setaudit(8) マニュアルペ ージ		setaudit(8)、showaudit(8)コマンドのマニュアルページでは 監査クラスに関する情報に誤りがあります。以下に監査クラス およびその値を記載します。 ACS_SYSTEM 1 ACS_WRITE 2 ACS_READ 4 ACS_LOGIN 8 ACS_AUDIT 16 ACS_DOMAIN 32 ACS_USER 64 ACS_PLATFORM 128 ACS_MODES 256
showaudit(8) マニュアル ページ		

表 6 マニュアルの変更予定 (続き)

マニュアル	ページ	変更内容
SPARC Enterprise M4000/M5000/M8000/M9000 サーバ Dynamic Reconfiguration (DR) ユーザーズガイド	2-21	<p>「2.5 運用管理」 以下の項を追加します。</p> <p>「2.5.6 XSCFフェイルオーバー時の留意点」 DR処理実行中にXSCF のフェイルオーバーが発生した場合、DR処理は継続されます。しかし、処理が完了していない可能性があるため、アクティブ側のXSCF に再度ログインして、処理が完了しているかどうか確認してください。完了していない場合、システムボードの状態を確認し、再度DR操作を行ってください。</p> <p>「2.5.7 カーネルメモリボード削除時の留意点」 カーネルメモリボードの削除または移動を行った場合、Copy-rename処理中にXSCFの故障やフェイルオーバーが発生したときは、Solaris OSのパニックが発生する可能性があります。Solaris OSがパニックした場合、以下のパニックメッセージを出力します。</p> <pre style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">Irrecoverable FMEM error <Error code></pre> <p>XSCFに再度ログインして、XSCFの状態を確認してください。Solaris OSを再起動し、XSCFでシステムボードの状態を確認するとともに、カーネルメモリボードを特定してから、再度DR操作を行ってください。</p> <p>「2.5.8 DVDドライブ接続時の留意点」 DVDドライブが接続されているシステムボードを、DR操作によって削除する場合は、以下の手順で行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. volfsサービスを無効にして、vold(1M)デーモンを止めます。 <pre style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"># /usr/sbin/svccadm disable volfs [Enter]</pre> <ol style="list-style-type: none"> 2. DR操作を行います。 3. volfsサービスを有効にして、vold(1M)デーモンを起動します。 <pre style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"># /usr/sbin/svccadm enable volfs [Enter]</pre> <p>詳細については、Solarisのマニュアルページのvold(1M)を参照してください。</p>